

6/7号機消火配管設備における溶接不良の再施工状況について

2022年6月9日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

1.これまでの経緯

- 「株式会社東京エネシス（以下、エネシス）の一部の下請会社（A社）が施工を担当した柏崎刈羽原子力発電所 6/7号機の消火設備の配管が、バックシールド工法を実施せず溶接施工されている」旨の匿名の申告を受け、調査を実施し申告通りの溶接不良箇所を6号機で確認
- 6号機固定式消火設備の工事を発注したKK6安全対策共同事業株式会社（KS6）と7号機の同工事を発注したエネシスの両元請け会社に対し、調査の継続を指示

（2021年7月30日お知らせ済み）

- 7号機における調査の結果、6号機同様の溶接不良箇所を確認
- バックシールド工法を実施していなかったA社の全溶接施工箇所（1,220箇所）、発注仕様通りに溶接施工されていないB社、C社、D社の溶接施工箇所（317箇所）及び自主対策設備（43箇所）について再施工を行う（合計1,580箇所）
- 再施工にあたっては、元請けであるエネシスの再発防止対策の有効性と実効性を、当社に加え第三者機関である発電設備技術検査協会も直接確認しながら、2022年1月より再施工を開始する
- 当社としても、原子力発電所を安全に運営・管理する観点から、同様の事案が生じないようエネシスに対して厳正な措置を講じるとともに、当社としての対策を実行することで再発防止を図る

（2021年12月24日お知らせ済み）

2. 7号機の再施工状況

- 7号機の再施工箇所は、固定式消火設備（1,537箇所）及び自主対策設備（43箇所）の合計1,580箇所であり、6月4日時点で1,486箇所が終了
- 再施工にあたっては、エネシスのバックシールドガス系統構成計画書の作成などの再発防止対策の妥当性を当社が確認しながら、2022年1月より再施工を開始
- また、第三者機関である発電設備技術検査協会も再施工の初期段階において、エネシスにおける施工前のバックシールドガス系統構成計画の検討状況や施工時の酸素濃度管理状況を確認
- 再施工の現地溶接作業は6月中に終了する見込みであり、今後、使用前事業者検査に移行

設備	固定式消火設備							自主対策設備	合計
	A社	B社	C社	D社	E社	F社	計		
施工実績（溶接施工箇所）	1,220	615	625	196	237	953	3,846	43	3,889
再施工対象（※）	1,220	148	91	78	0	0	1,537	43	1,580
再施工実績（6/4時点）	1,188	114	78	63	—	—	1,443	43	1,486

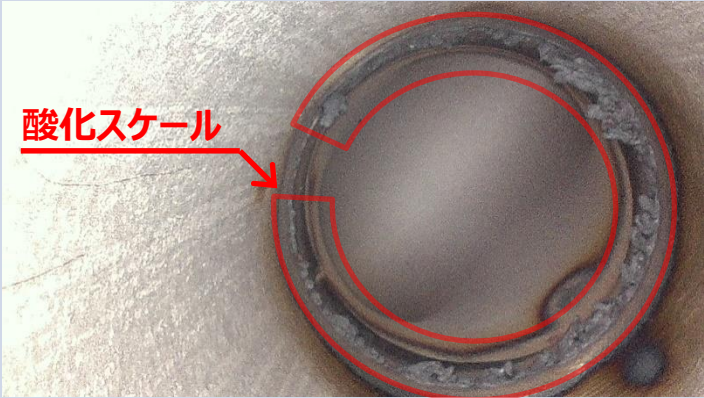

※ A社：申告案件（バックシールド工法未実施）であり全数再施工

B～D社：発注仕様通りに溶接施工されていない箇所

E社：内面調査にて問題なし

F社：工場溶接のため品質確認済

3. 溶接不良箇所の再施工状況

施工状況	写真	備考
施工前	 <p>酸化スケール</p>	配管内面の溶接部に酸化スケールの付着あり
施工後		配管内面の溶接部に酸化スケールの付着なし

4. 6号機の溶接施工状況、調査再開方針及び再施工

- 6号機の溶接施工箇所は、7号機で施工していたA,B,E,F社と6号機のみ施工のG,H社、計6社で3,204箇所
- 7号機でバックシールド工法を実施しておらず全数再施工するA社については、6号機も同様に全数再施工（1,251箇所）
- 工場溶接で品質確認ができていないF社（623箇所）の溶接施工箇所については、7号機同様、調査対象から除外
- B,E,G,H社の4社について、準備が整い次第、7号機同様、すべての溶接施工箇所（1,330箇所）の内面調査を再開
- 内面調査の結果については、7号機同様、当社に加え第三者機関である発電設備技術検査協会による確認も実施
- 調査にて溶接不良が確認された場合は、順次、再施工を行う

施工会社	A社	B社	E社	F社	G社	H社	計
施工実績 (溶接施工箇所)	1,251	794	279	623	233	24	3,204
内面調査対象	対象外 (全数再施工)	全数調査	全数調査	対象外 (工場溶接)	全数調査	全数調査	1,330